

健康福祉委員会
令和3年6月15日・16日
健康政策部 資料24番
所管 健康づくり課

令和2年度 大田区生活状況に関する調査の結果について

1 調査の目的

区民の生活状況を把握し、今後のひきこもり等に対する支援のあり方を検討するための基礎資料とする。

2 調査方法

調査対象	大田区在住の満15歳から満64歳の方から無作為抽出した5,000人及びその同居人（外国籍の方は除く）
調査方法	調査票を郵送し、郵送またはインターネットにより回収
調査期間	令和2年12月1日から12月28日まで

3 回収結果

	本人票	同居人票
回収数	1,506人	854人
回収率	30.1%	17.1%

4 広義のひきこもり群の定義

本人票の中で、次の①②と回答した方から③を除いた方

①外出頻度

- ・ふだんは家にいるが、趣味の用事又は近所のコンビニ等には外出する。
- ・自室からは出るが、家からは出ない。自室からほとんど出ない。

②ひきこもり状態の期間が6か月以上

③生活状況等

- ・現在、何らかの仕事をしていると回答した方
- ・現在、専業主婦・主夫・家事手伝いと回答したか、妊娠・介護・看護・出産・育児を理由にひきこもり状態になったと回答した方のうち、最近6か月間に家族以外の人とよく会話した、ときどき会話したと回答した方
- ・身体的病気を理由にひきこもり状態になったと回答した方
- ・新型コロナウイルスに係る自粛を理由に外出していない方

5 調査結果

(1) 広義のひきこもり群の出現率・推計値

該当者／有効回答数	20人／1,506人	<参考>内閣府調査の出現率 平成27年度（満15～39歳対象）1.57% 平成30年度（満40～64歳対象）1.45%
出現率	1.33%	
推計値	6,228人	

(2) 主な調査項目に対する広義のひきこもり群の回答

(※は、複数回答可の調査項目)

調査項目	回 答
Q 1 性別	男性 50% 女性 50%
Q 2 現在の年齢	10代 20% 20代 15% 30代 10% 40代 10% 50代 25% 60代 20%
Q 3 同居者※	母 40% 配偶者 30% 父 30% 兄弟姉妹 25% 子 20% 単身 15% 祖父母 5% その他の人 5%
Q 4 同居人数	単身 20% 2人 35% 3人 15% 4人 20% 5人 10%
Q 5 主たる生計者	本人 30% 配偶者 20% 父 35% 母 5% 兄弟姉妹 5% 生活保護 5%
Q13 過去の経験※	不登校 35% (小・中・高校・大学時を合算。実人数は5人) 35歳以上で無職 20% ニート 15% 初めての就職から1年以内に離職・解職 10% 該当なし 50%
Q14 現在の状況	無職 55% 学生 25% 専業主婦・主夫 20%
Q15 就労経験※	正社員 73.3% 契約・派遣社員等 33.3% 自営・自由業 13.3% 就労経験なし 20%
Q19 自宅でよくしていること※	インターネット 70% テレビ 55% ゲーム 40% 家事 35% 読書 25% 勉強 15% 新聞を読む 10% 育児 5% 介護・看護 5%
Q21 外出頻度	趣味の用事のみ外出 50% 近所のコンビニ等に外出 50%
Q22 ひきこもりの期間	6か月～1年未満 20% 5～7年未満 15% 1～2年未満 15% 7～10年未満 5% 2～3年未満 25% 20～25年未満 5% 3～5年未満 10% 25～30年未満 5%
Q24 ひきこもりの開始年齢	10代 30% 20代 20% 30代 5% 50代 15% 60代 15% 無回答 15%
Q26 ひきこもりのきっかけ※	退職 8人 コロナ 5人 人間関係の不調 4人 病気 3人 妊娠 2人 介護・看護 1人 就職活動 1人 不登校 1人 受験の失敗 1人 わからない 3人 その他 3人

6 支援の検討に当たり重視すべき視点

- (1) 相談窓口の設置、専門相談員の配置
- (2) 複数の機関による連携した支援の必要性
- (3) 本人の社会復帰に向けた支援の充実
- (4) 家族への支援の充実